中国大都市部在住の若年層女性はどのようなライフコースを希望しているのか？
―家族モデル視点からの考察―

劉　宇婷（同志社大学大学院）

【問題の所在と目的】

これまでのライフコース研究では、女性のライフコースと時代効果、社会階層、親の影響との関連性が明らかにされてきたが、家族モデルがライフコースに与える影響は未だ視座として捉えられていない。欧米と日本では、出生率の低下にともなう家族のありようの変化を経験してきたことから、「家族モデル」が重要な研究課題として多く議論されてきた。一方、日本以外の東アジア諸国においては、「圧縮された近代」(compressed modernity)（Chang 2010 = 2013）という現象によって、20 世紀システム（落合 2019）を十分に経験してこなかった。そのため、家族のありようの変動が欧米や日本ほど明確ではなかった。その結果、中国の家族研究においては、どのような家族モデルに該当する人々がどのようなライフコースを選択するかについて、いまだ研究が乏しい状況にある。

そこで本研究は、家族モデルというパースペクティブに基づき、家族モデル意識と若年層女性のライフコース希望との関連を明らかにすることを目的とする。

【使用したデータ】

調査は深圳中為慧数信息咨詢有限公司に委託した。調査会社が保有するネットモニターからランダムに抽出し、中国における 19 の大都市で質問紙がウェブで配布された。調査対象者は 20～34 歳の女性である。調査期間は 2022 年 12 月 9～11 日である。有効回答数は 985 件であり、回収率は 31.0％であった。

【分析結果】

将来の結婚意向、子どもを持つ意向と家族モデル意識の関連を探る二項ロジスティック回帰分析を行った。その結果、前近代モデル意識と近代家族モデル意識が高いほど、結婚意向、子どもを持つ意向が強かった。その中でも、近代家族モデル意識のほうが将来の結婚意向、子どもを持つ意向とより強い関連があった。反対に、脱近代家族モデル意識が高いほど、結婚意向も子どもを持つ意向も弱かった。

また、将来の老親扶養意向と家族モデル意識の関連においては、脱近代家族モデル意識が高いほど、将来社会介護サービスを利用する意向が強かった。一方、前近代モデル意識と近代家族モデル意識が高いほど、家庭内介護をする意向が強い傾向が見られた。老親扶養意向に関するこれらの結果は、自分の親に対しても配偶者の親に対しても同じ傾向となっている。

【考察】

中国は自然な人口動態と人口的操作（一人っ子政策）という 2 つの要因によって少子高齢化が加速している。特に大都市部はすでに脱近代化社会に突入しており、個人主義の強い脱近代家族モデルでは、家庭内介護がますます困難となる。現段階では、介護保険パイロット事業が導入されているが、利用したい人が全員利用できるという理想像には程遠いと言えるだろう。今後、脱近代社会が進行していくなかで、脱近代家族モデル意識が高い若年層女性が増えていくと考えられる。本研究の分析結果が示したように、脱近代家族モデル意識が高いほど、社会的介護サービスを求めている状況にあり、社会的介護保険制度の完備が喫緊の課題となっている。

【文献】

Chang, Kyung-Sup, 2010, “Individualization without Individualism,” *Journal of Intimate and Public Spheres,* 0 (Pilot Issue)：23-29. (=2013，柴田悠訳「個人主義なき個人化」落合編『親密圏と公共圏の再編成――アジア近代からの問い』京都大学学術出版会．)

落合恵美子，2019，『21 世紀家族へ――家族の戦後体制の見かた・超えかた（第 4 版）』有斐閣.

（キーワード：ライフコース、家族モデル、質問紙調査）